



開学 100 周年に向けて

**生涯学びを楽しむ**

**Enjoy Learning for Life**

---

# 2017 年度 事業計画書

---

学校法人 名城大学



## 目 次

トップメッセージ .....	1
I MS-26（2015年度～）戦略プラン .....	2
II MS-26に基づく事業計画 .....	4
(1) 名城大学における優先課題 .....	4
(2) 名城大学附属高等学校における優先課題 .....	4
(3) 2017年度事業計画の施策 .....	5
1) 「人材の確保と育成」分野 .....	5
2) 「教育の充実」分野 .....	5
3) 「研究の充実」分野 .....	6
4) 「社会貢献」分野 .....	6
5) 「組織・経営改革（組織・体制整備）」分野 .....	6
III 中期事業計画（2015年度～2018年度） .....	8

## トップメッセージ

### 「学生・生徒第一主義」をモットーに



理事長 小笠原 日出男

現在、少子高齢化による生産年齢人口の急減、グローバル化に伴う地球的規模の問題の顕在化、地球環境の悪化、ICTによる産業革命など、急速に社会環境が変化する中、社会が求める人材も多様化、高度化してきています。

一方で、中等・高等教育を取り巻く環境に目を向けますと、学齢人口の減少を背景に、高等学校教育、大学教育及び大学入学者選抜を一体的に改革する「高大接続システム改革」をはじめ、「私立大学等改革総合支援事業」などの補助金行政や平成30年から実施される第三期認証評価を通じて、各教育機関に対して、教育の在り方自体を根本から見直すことが強く求められています。

そうした中、本学では、立学の精神である「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を普遍的理念と位置付け、今まさに社会が求めるバランス感覚と実行力を兼ね備えた人材の育成に努めてきました。2004年には、2015年を目標年とする「学校法人名城大学における基本戦略について（Meijo Strategy-2015）」（MS-15と通称）を策定し、掲げるビジョンの実現に向けて様々な事業展開を図った結果、志願者数の増加や就職率の向上など、目に見える形で多くの成果が表れてきています。

2015年度からは、より変化する環境を十分に踏まえ、開学100周年の2026年を目標年とする新たな戦略プランとして「Meijo Strategy-2026」（MS-26と通称）を策定しました。MS-26戦略プランでは、本学の創設から今日まで築いてきた精神を「生涯学びを楽しむ」という言葉に託し、私たちが常に心に刻む価値観として掲げ、全ての学生・生徒が、本学の教育を通じて「学ぶ楽しさ」に気づき、人生を楽しみながら生涯学び続けてほしいという思いが込められており、卒業後の人生も見据えた教育を展望しています。この価値観を基本として、大学では「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」、附属高等学校では『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』を将来像として設定しました。大学では、キャンパス内外での様々な人たちとの出会いや経験を通じて、学生が学び続けられるコミュニティの場を提供し続けること、附属高等学校では、生徒に多様な経験を提供し、常に挑戦し続ける高校を目指すことが、その意味するところ です。

このMS-26戦略プランを踏まえ、開学90周年を迎えた2016年度は、ナゴヤドーム前キャンパスの開設及び外国語学部の設置など節目となる事業が形となり、大学では研究分野で「私立大学研究ブランディング事業（世界展開型）」に採択され、附属高等学校では文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に第3期目となる指定を受けました。加えて愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科の指定管理法人の指定を受けたことなど、本学の「教育研究力の水準の高さが証明された年」でありました。

2017年度は、開学100周年に向けた「スタートの年」となります。「学生・生徒第一主義」をモットーとして、MS-26戦略プランを軸に「生涯学びを楽しむ」という価値観を共有しながら絶え間ない改革を推し進め、学生・生徒が本学を卒業したことに誇りを持てる大学や学校づくりを目指して取り組んでいきますので、引き続きのご支援とご協力をお願いいたします。

2017年3月

# I MS-26 (2015年度～) 戦略プラン



学長 吉久 光一

2015-2026

## MS-26 (2017年度) 戦略プラン [大学]

立学の精神：「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」

[大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観]  
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

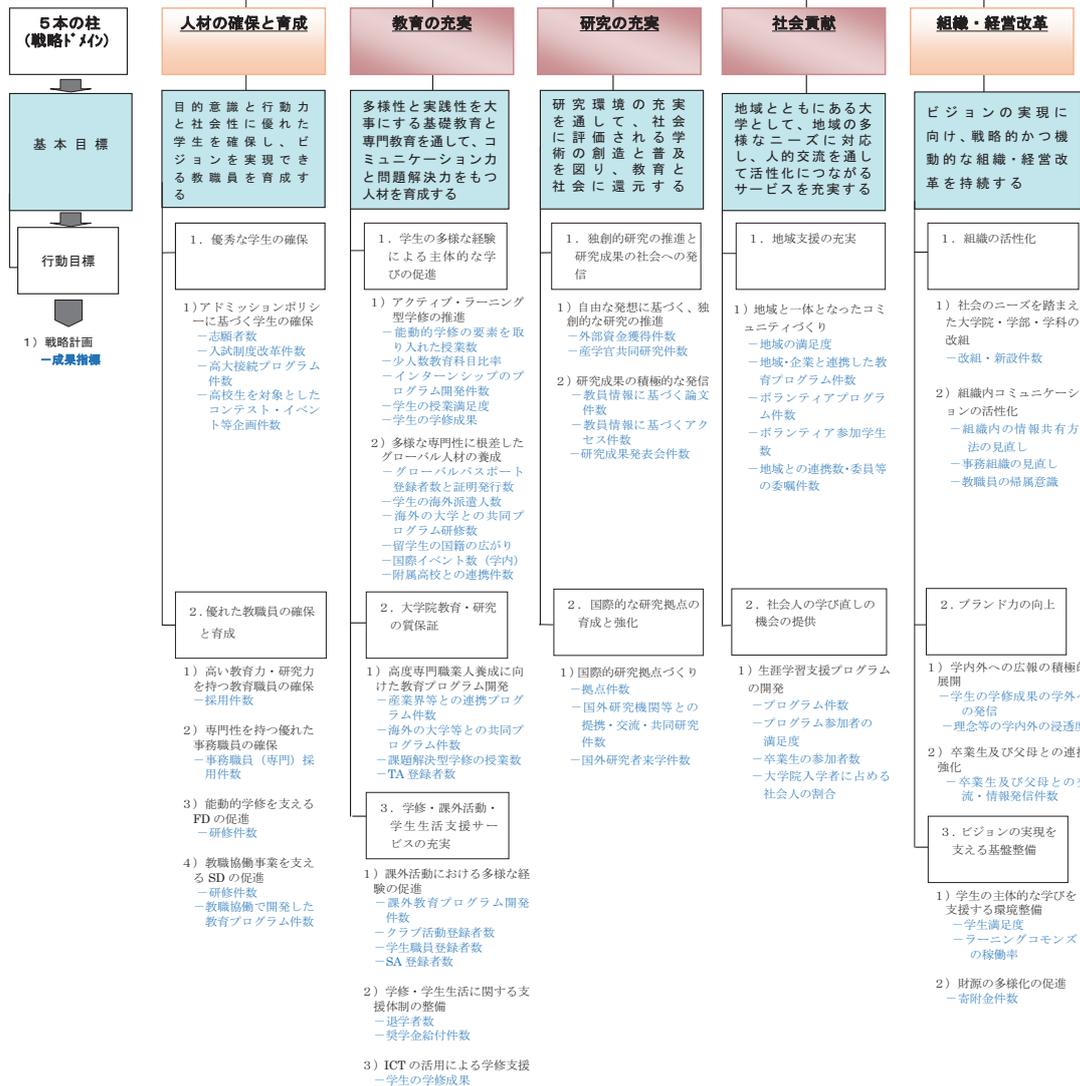
Vision：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

Mission：(教育ミッション) 主体的に学び続ける「実行力ある教養人」を育てる

(研究ミッション) 「学問の探究と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する

(社会貢献ミッション) 社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

Key Performance Indicators (KPI)：学生の大学に対する満足度、学生の学修成果、就職満足度、卒業後の帰属意識、教職員の帰属意識



2015－2026

MS-26 (2017年度) 戦略プラン[附属高等学校]



学校長 岩崎 政次

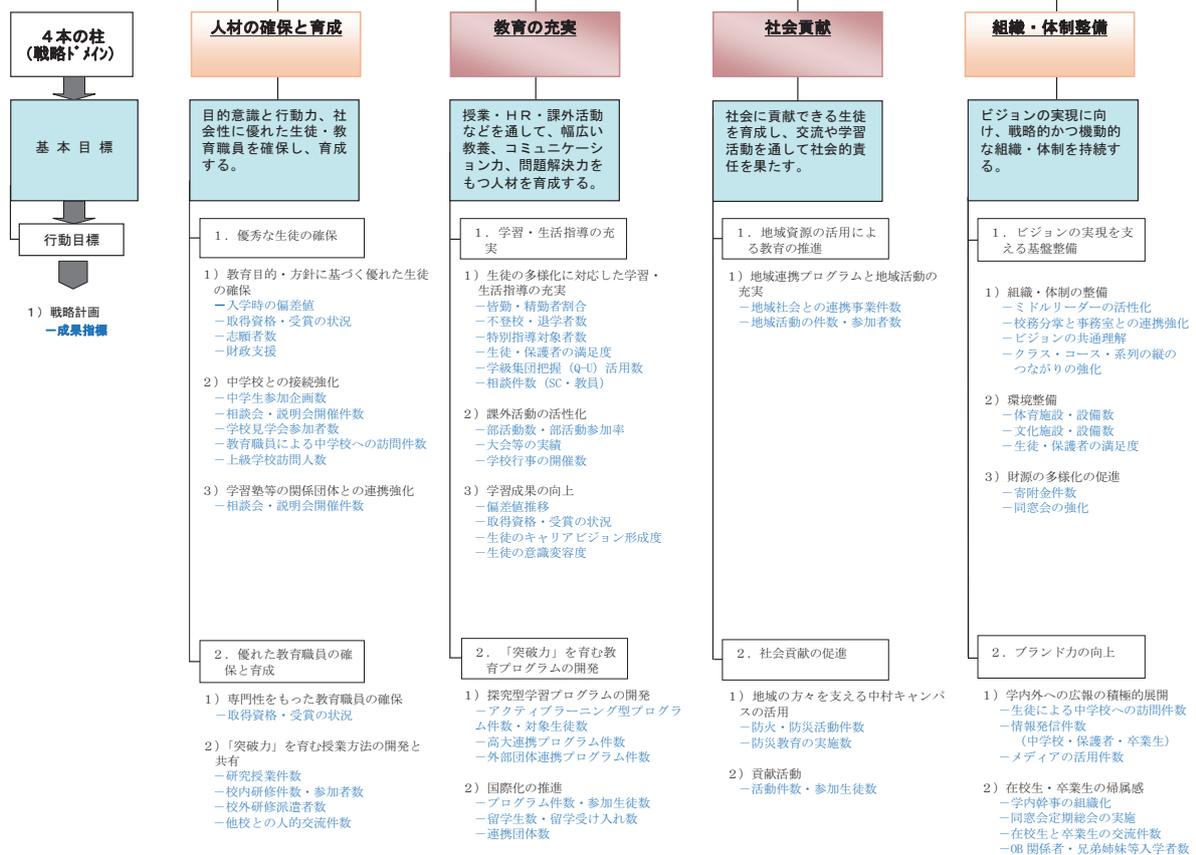
立学の精神：「穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」

[大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観]  
生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」

Vision：「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

Mission： (教育ミッション)「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する  
(社会貢献ミッション)「人的交流」や「学習活動」を通して、社会的責任を果たす

Key Performance Indicators (KPI)：卒業後の帰属意識、生徒・保護者の学校に対する満足度



## Ⅱ MS-26に基づく事業計画

本学が掲げる価値観「生涯学びを楽しむ」を踏まえ、2017年度は、次のテーマを重要課題として優先的に取り組みます。

- 開学100周年（2026年）をマイルストーンとするビジョン  
（名城大学）

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる  
（名城大学附属高等学校）

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

### （1）名城大学における優先課題

- 1) アドミッションポリシーに基づく学生の確保
- 2) 能動的学修を支えるFDの促進
- 3) アクティブ・ラーニング型学修の推進
- 4) 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成
- 5) 課外活動における多様な経験の促進
- 6) 国際的研究拠点づくり

### （2）名城大学附属高等学校における優先課題

- 1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保
- 2) 「突破力」を育む授業方法の開発と共有
- 3) 生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実
- 4) キャリア教育プログラムの開発
- 5) 探究型学習プログラムの開発
- 6) 国際化の推進



### (3) 2017年度事業計画の施策

2017年度事業計画の施策を次のとおり掲げます。

#### 1) 「人材の確保と育成」分野

《大学・高校》

○国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。

《大学》

○能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。

○教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。

《高校》

○「突破力」を育む授業方法の開発や共有を推進する取り組みを支援する。

#### 2) 「教育の充実」分野

《大学》

○学生の主体的な学びの促進に向け、アクティブ・ラーニング型学修の導入を支援する。

○ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーとの一貫性を担保した、体系的なカリキュラム運営を支援する。

○内部質保証を前提とした自己点検・評価制度の再構築を支援する。

○多様な専門性に根差したグローバル人材の養成に向けたプログラム開発等を支援する。

○高大連携体制の充実を支援する。

○学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。

○教育に係る外部資金の獲得を奨励し、支援する。

○大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。

○課外活動における多様な経験の創出を支援する。

○学生の満足度向上に向けた学生支援の充実策を支援する。

○キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。

○教職免許状取得に係る充実策を支援する。

《高校》

○生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実に向けた取り組みを支援する。

○「突破力」を育む教育プログラムの開発を支援する。

**3) 「研究の充実」分野**

《大学》

○自由な発想に基づく、独創的な研究の推進を支援する。

○教員の研究シーズを発掘し、新しい製品やサービス・事業を生み出すため、企業及び各省庁等との連携を支援する。

○外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を講ずる。

○研究成果の社会への積極的な情報発信を支援する。

○国際的研究拠点づくりを支援する。

**4) 「社会貢献」分野**

《大学・高校》

○愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科の指定管理法人として、同校の教育支援の充実に取り組む。

《大学》

○地域と一体となったコミュニティづくりを目指す取り組みを支援する。

○地域生涯学習プログラムに対する拠点づくりを支援する。

《高校》

○地域社会との交流促進を支援する。

**5) 「組織・経営改革（組織・体制整備）」分野**

《大学・高校》

○「MS-26戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。

○ガバナンス体制の再構築に取り組む。

- 本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。
- 卒業生及び父母（保護者）との総合的な交流の促進を支援する。
- 施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。
- 投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。

《大学》

- 学部・研究科等の再編等の検討に取り組む。
- 組織マネジメントの観点から、教職協働を踏まえた組織改革に取り組む。
- 人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。
- 社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。



■中期事業計画 (2015年度～2018年度)

【大学】

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降			
人材の確保と育成	優秀な学生の確保  優れた教職員の確保と育成	■国内外の優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた取り組みを支援する。  アドミSSIONポリシーに基づく学生の確保  高い教育力・研究力を持つ教職員の確保  専門性を持つ優れた事務職員の確保	ターゲットとする高等学校からの多様で優秀な学生増加策の検討	A	ターゲットとするランクの階級からの志願者の率	野口副学長 入学センター	増加策検討 → 増加策実施 → 検証 → 増加策の検討と実施	ロードマップ						
			高大接続答申を踏まえた入試制度の抜本的な見直し	A	入試制度改革提案数	野口副学長 入学センター	情報収集 → 学内体制検討 → 学内体制による入試制度設計							
			多様な国々からの優秀な留学生の確保策の検討	B	外国人留学生出身国数	福島副学長 ★国際化推進センター 入学センター	優秀な留学生の増加策の検討 → 検討策の実施							
			多面的な視点からのアプローチによる教員数の検討	B	教員数の確定	野口副学長 総合政策部	検討 → 検討結果の履行							
			優秀な教員採用に向けた制度構築 (学長裁量人事、外国人・女性など多様化促進等の検討)	B	制度の構築	加藤理事 総務部	教員採用に係る担当部門と連携して採用							
			重点化項目に関わる事務職員の専門人材の採用	B	専門人材の有効活用	加藤理事 総務部	受け入れ体制の検討と構築 → 採用と活用							
			■能動的学修を支えるFD (Faculty Development) 活動の実質化策を支援する。											
			能動的学修を支えるFDの促進	A	各種取組の実施回数	野口副学長 大学教育開発センター	各年度末に全学委員会 → 実施・検証・計画(全学・学部等) → 実施・検証・計画(全学・学部等) → 実施・検証・計画(全学・学部等)							
			■教職協働事業を進めるため、事務職員の人材高度化を目指すSD (Staff Development) を支援する。											
			教職協働事業を支えるSDの促進	A	SD研修制度の構築と運用開始	加藤理事 総務部	構築 → SD研修の運用							

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 以降	
教育の充実に 実	学生の多様な経験による主体的な学びの促進	<p>■学生の主体的な学びの促進に向け、アクティブ・ラーニング型学修の導入を支援する。</p> <p>「学びのコミュニケーションづくり」に向けたアクティブ・ラーニング学修増加策の検討</p> <p>教育の質保証・PBL教育の推進に向けた組織体制の整備</p> <p>アクティブ・ラーニング型学修の推進</p> <p>■ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミSSIONポリシーとの一貫性を担保した、体系的なカリキュラム運営を支援する。</p> <p>■内部質保証を前提とした自己点検・評価制度の再構築を支援する。</p> <p>■多様な専門性に根差したグローバル人材の養成に向けたプログラム開発等を支援する。</p> <p>■高大連携体制の充実を支援する。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>能動的学修形態の実施件数</p> <p>組織体制の整備</p> <p>教育補助員数 教育課程一覧の科目数 ICT活用授業教授実施単位の工夫数</p> <p>ポリシーの見直し</p> <p>学習成果を可視化するアセスメント方法の開発 (アセスメントポリシーの検討、学修行動調査の開発、学修ポートフォリオ、ルーブリックなどの導入の可能性について検討) (FD活動)における授業改善アンケートの抜本的見直しと実質化)</p> <p>制度的構築</p> <p>教育課程の機関レベルの検証体制構築</p> <p>海外派遣学生数</p> <p>検討組織の設置・関係件数</p>	<p>野口副学長 ★大学教育開発センター学務センター</p> <p>野口副学長 ★総合政策部 大学教育開発センター</p> <p>野口副学長 学務センター</p> <p>野口副学長 総合政策部</p> <p>野口副学長 ★学長室 総合政策部</p> <p>福岡副学長 国際化推進センター</p> <p>野口副学長 ★大学教育開発センター 入学センター</p>	<p>能動的学修促進PJの審議結果を踏まえ検討</p> <p>組織体制の検討</p> <p>教育補助員</p> <p>カリキュラム検討</p> <p>ICT</p> <p>授業の実施単位</p>	<p>促進PJの審議結果を踏まえ検討</p> <p>組織体制の検討</p> <p>検討・企画・立案</p> <p>各学部で検討</p> <p>各学部の合意</p> <p>修正手続</p> <p>実施</p> <p>実施</p> <p>実施</p>	<p>ロードマップ</p>	<p>2018年度</p>	<p>2019年度以降</p>		
						<p>ポリシーの見直し</p>	<p>ポリシーの見直し</p>	<p>FD委員会</p>	<p>自己点検・評価活動</p>	<p>体制の再構築</p>	<p>計画の履行と検証</p>	<p>全学の方針確認(準備期間) 全学で確認された方針に基づく検討組織の設置</p>

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度 ロードマップ	2017年度	2018年度	2019年度 以降	
教育の充実	学生の多様な経験による主体的な学びの促進	■学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。	学生の多様な学びを促進する教育プログラムを開発	A	正課外学習プログラムの開発件数	野口副学長 大学教育開発センター	学習相談室等の正課外学習の運営・改善					
				A	教養教育連携推進委員会の開催数	野口副学長 ★大学教育開発センター 学務センター	改善・運営(教養教育連携推進委員会) ★(法・外国語)				★全学部	
				B	検討会議回数 導入学部数	野口副学長 学務センター	検討・企画・立案 各学部検討				実施	
				B	申請件数 採択件数	野口副学長 大学教育開発センター	準備(申請資格への対応)				教育改善の推進・申請	
	大学院教育・研究の質保証	■大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。	高度専門職業人養成に向けた教育プログラム開発	A	検討事項の具体化件数	野口副学長 ★総合政策部 学務センター 学長室	方向性について検討					検討を踏まえた対応
				A	参加学生数 ボランティア活動の企画数	佐川副学長 学務センター	学外調整 企画立案				プログラム実施・検証	
	学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	■課外活動における多様な経験の創出を支援する。	課外活動における多様な経験の促進	A	参加学生数 プログラム数 活動報告書数	佐川副学長 各センター	正課外プログラム全体像の検討 個別プログラムの開発・実施					
				A	入学から4年間の退学者の比率 面談回数 会議検討回数	佐川副学長 ★学務センター 保健センター 総合政策部	データ整理 総合的學生指導 企画・立案 各学部での実施					
				A	障がい者支援室の設置と委員会の開催件数	佐川副学長 ★協賛学生支援センター 学務センター 保健センター 入学センター キャリアセンター	成績不振者判定 定基準設定 面談の実施					
				B	検討委員会の設置と開催件数	野口副学長 ★大学教育開発センター 情報センター 学務センター	設置準備 検討開始					
			■学生の満足度向上に向けた学生支援の充実を支援する。									
	ICTの活用による学修支援	ICTの活用による全学的な学修支援体制(学修ポートフォリオの導入等)の検討と活用										

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
								ロードマップ			以降
教育の充実	学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実	■キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。 就職に対する満足度向上に向けた対応 学修・学生生活に関する支援体制の整備	A	就職満足度	佐川副学長 キャリアセンター	満足度指標についての検討 導入に向けた準備と導入					
				就職満足度 就職率	佐川副学長 ★キャリアセンター 国際化推進センター	満足度指標についての検討 導入に向けた準備と導入					
				受講者満足度	佐川副学長 キャリアセンター	満足度指標についての検討 導入に向けた準備と導入					
研究の充実	独自の研究の推進と研究成果の社会への発信	■教職免許取得に係る充実策を支援する。 学修・学生生活に関する支援体制の整備 ■自由な発想に基づく、独自の研究の推進を支援する。 自由な発想に基づく、独自の研究の推進 ■教員の研究シーズを把握し、新しい製品やサービス・専業を生み出すため、企業及び各庁等との連携を支援する。 自由な発想に基づく、独自の研究の推進 ■外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を講ずる。 自由な発想に基づく、独自の研究の推進 ■研究成果の社会への発信	B	体制の再構築	野口副学長 ★総合政策部 教職センター 学務センター	学制改革に係る情報収集 学制改革を踏まえた対応 (検討時期は未定) 学部との協働体制構築に向けた教職の在り方の検討					
				外債金償還件数 産学官共同研究 件数・金額	磯前副学長 ★学術研究支援センター 総合研究所 財政部	検討 検討策の導入					
				受託研究件数 共同研究件数 シーズ件数 特許件数	磯前副学長 学術研究支援センター	検討 検討策の導入と検証					
研究の充実	研究成果の積極的な発信	■外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を講ずる。 外債資金獲得増加策の再検討 ■研究成果の社会への発信	B	科学研究費申請 件数 各種競争的資金 の獲得件数・金額	磯前副学長 学術研究支援センター	検討 検討策の導入と検証					
				規定化された 目的の開示 教員情報に基づ く論文件数・ア クセス件数	磯前副学長 ★附属図書館 学務センター 学術研究支援 センター	公開情報の整理 公開					
				開催件数 参加者数	磯前副学長 学術研究支援 センター	奨励と実施					

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
									ロードマップ		以降
研究の充実	国際的な研究拠点の育成と強化	■国際的研究拠点づくりを支援する。	国際的な研究拠点づくりを推進 (LED、ナノカーボンを核とした拠点づくり、シーズの育成等)	A	拠点件数 国外研究機関等との連携・交流・共同研究 国外研究者来校件数	磯前副学長 学術研究支援センター			検討と推進		
		国際的研究拠点づくり									
社会貢献	地域支援の充実	■愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科の指定管理法人として、同校の教育支援の充実に取り組む。	愛知県との公設民営化による 学校づくり  ■地域と一体となったコミュニケーションを支援する。  社会連携の拠点整備 (組織づくりとミッションの明確化)  地域をフィールドとした地域の課題解決型教育プログラムの調査及び実施部署との連携	A	開設及び運営	武蔵宮本部長 総合政策部		検討			
		愛知県との公設民営化による学校づくり									
		社会連携の拠点整備(組織づくりとミッションの明確化)						検討			
		地域をフィールドとした地域の課題解決型教育プログラムの調査及び実施部署との連携						検討	組織整備と遂行		
組織・経営改革	社会人の学び直しの機会の提供	■地域生涯学習プログラムに対する拠点づくりを支援する。	社会人の学び直しを視野に入れた生涯学習支援プログラムの調査及び実施部署との連携 (サードパーティークーティングプログラムも視野に)  企業との連携を視野に入れた大学院教育開発 (企業人の学び直しによるスキルアップ)	B	プログラム調査 件数	磯前副学長 ★社会連携センター 渉外部 大学教育開発センター 学務センター		検討			
		生涯学習支援プログラムの開発									
		企業との連携を視野に入れた大学院教育開発(企業人の学び直しによるスキルアップ)						調査検討	企画立案 できる研究科から実施		
		社会人の学び直しを視野に入れた生涯学習支援プログラムの調査及び実施部署との連携(サードパーティークーティングプログラムも視野に)							実施		
組織・経営改革	組織の活性化	■学部・研究科等の再編等の検討に取り組む。	全学的視点による既設学部・学科の再編及び新学部の設置の可能性について検討  理工学研究科の再編  大学全体の適正規模(収容定員)の検討	B	ポジショニング 指標の向上	野口副学長 ★学長室 総合政策部		検討		検討内容の具現化	
		理工学研究科の再編						再編準備			
		大学全体の適正規模(収容定員)の検討						規模の検討		検討を踏まえた対応	
		社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組							開設		

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度				
								ロードマップ	ロードマップ		以降				
組織・ 経営 改革	組織の活性化	<p>■「MS-26 戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組み。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■組織マネジメントの観点から、教職協働を踏まえた組織改革に取り組み。</p> <p>事務組織体制の再構築</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>ICT戦略の構築（ICTスマート大学の実現に向けて）</p> <p>■人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■ガバナンス体制の再構築に取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■社会的責任を踏まえた危機管理体制の構築に取り組む。</p> <p>組織内コミュニケーションの活性化</p> <p>■本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。</p> <p>学内外への広報の積極的展開</p> <p>■卒業生及び父母（保護者）との総合的な交流の促進を支援する。</p> <p>卒業生及び父母との連携強化</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>システムの構築</p> <p>指針の策定</p> <p>事務組織の再構築</p> <p>制度の導入</p> <p>ICTスマート大学の具現化</p> <p>新人事制度の運用の開始</p> <p>選考方法等の検証と見直し</p> <p>体制の再構築</p> <p>教職員の帰属意識</p> <p>卒業生の帰属意識</p>	<p>野口副学長 ★MS-26推進室 学長室</p> <p>野口副学長 MS-26推進室</p> <p>武藤経営本部長 総務部</p> <p>野口副学長 総合政策部</p> <p>加藤理事 ★情報センター 総合政策部</p> <p>武藤経営本部長 総務部</p> <p>野田理事 総合政策部</p> <p>加藤理事 総務部</p> <p>武藤経営本部長 渉外部</p> <p>武藤経営本部長 ★渉外部 学務センター</p>	システ	システムの開発と推進								
						指針の策定	指針の策定								
						再構築	再構築								
						制度の検討	制度の検討								
						戦略の構築	戦略の構築								
						見直し	見直し								
						検討	検討								
						体制再構築	体制再構築								
						検討	検討								
						検討	検討								

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
								ロードマップ			以降		
組織・ 経営 改革	ビジョンの実現を 支える基盤整備	学生の主体的な学びを支援 する環境整備	<b>■施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。</b>  キャンパスにおける環境保全の推進  ■新校友会館の建設(校友会館・郵便局解体も含む) ■4号館A棟・11号館改修 ■国際化拠点施設整備 ■アプローチ整備前期工事 ■研究実験棟Ⅲの建設 ■4号館Aの一部・B、C回体 ■春日井(鷹来)新本館の建設(現本館改修含む)	A	キャンパス内の 環境保全の全体 的な向上	磯前副学長 総務部	名城環境マネジメントシステムによる環境保全活動と検証						
				中長期計画 に基づく再 開発計画の 推進	A	スケジュール通 りの実施 学生の満足度	加藤理事 施設部						
			<b>■投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。</b>  新たな予算制度の構築	B	事業活動収入 (255億円以上)	野田理事 ★財政部 MS・26推進室	セグメント別損益分岐点作成 収入の多様化、支出の削減策提案 事業評価に基づく予算配布の検討						



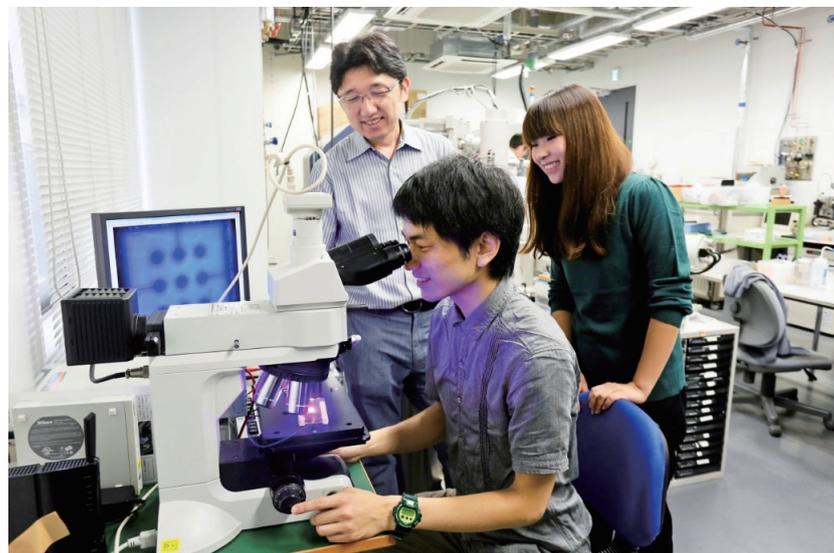


ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度 ロードマップ	2017年度	2018年度	2019年度 以降
組織・体制整備	1. ビジョンの実現を支える基盤整備	<p>■「MS-26 戦略プラン」を踏まえた組織の活性化策に取り組む。</p> <p>1) 組織・体制の整備</p> <p>○MS-26 戦略プランに基づくマネジメントシステムの質の向上</p> <p>■ガバナンス体制の再構築に取り組む。</p> <p>○高校運営会議を核とするマネジメント体制の確立</p> <p>○ミドルリーダーの活性化に向けた校内組織体制の整備</p> <p>○ビジョン、ミッション、教育目標等の共通理解に向けた教職員への情報発信、研修等を推進</p> <p>1) 組織・体制の整備</p> <p>○クラス・コース・系列の縦のつながりを強化するための仕組みづくり</p> <p>○学校の自己評価、学校関係者評価によるPDCAサイクルの実質化</p>	<p>緊急性</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>達成度の指標</p> <p>システム構築</p> <p>体制の構築</p> <p>体制整備</p> <p>研修件数</p> <p>体制整備</p> <p>システムの構築</p> <p>環境整備</p> <p>寄附金件数 寄附金額</p> <p>訪問件数</p> <p>発信件数</p> <p>名簿整備</p> <p>文化祭時催物、 文化講演会の実施</p>	<p>責任者等</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>校長・副校長 教頭</p> <p>事務</p> <p>総務部</p> <p>総務部 学内幹事</p> <p>学内幹事 事務</p> <p>学内幹事</p>	<p>2015年度</p> <p>2016年度 ロードマップ</p> <p>2017年度</p> <p>2018年度</p> <p>2019年度 以降</p>	<p>システムの開発と推進</p> <p>体制の構築</p> <p>体制整備</p> <p>研修の開発と推進</p> <p>仕組みづくり</p> <p>現状の検証とシステムの構築</p> <p>システムの稼働</p>	<p>計画の策定</p> <p>計画の具現化に向けた検討</p> <p>継続的な募集活動</p> <p>中学校への継続的な訪問</p> <p>継続的なコミュニケーション</p> <p>名簿整備</p> <p>検討</p> <p>実施</p>			
							<p>■施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。</p> <p>2) 環境整備</p> <p>○ビジョンを実現するための教育環境整備について、財政状況を踏まえた開発計画を検討・履行</p>	<p>環境整備</p>	<p>校長・副校長 教頭</p>	<p>計画の策定</p> <p>計画の具現化に向けた検討</p>	
							<p>■投資財源の確保に向けて、財源の多様化及び収支構造の改善を促進する。</p> <p>3) 財源の多様化の促進</p> <p>○財源の多様化の観点から、寄附金募集活動を積極的に推進</p>	<p>寄附金件数 寄附金額</p>	<p>事務</p>	<p>継続的な募集活動</p>	
							<p>■本学の強みを意識した学内外への広報に取り組む。</p> <p>1) 学内外への広報の積極的展開</p> <p>○生徒による中学校への訪問件数を増やし、口コミによる広報活動を展開</p> <p>○中学校、保護者、卒業生それぞれのニーズに即した情報発信を積極的に進めると同時に、双方のコミュニケーションを活性化</p> <p>○同窓会名簿を充実</p> <p>○文化祭同時同窓会催物実施、同窓会文化講演会(仮称)実施を検討</p>	<p>訪問件数</p> <p>発信件数</p> <p>名簿整備</p>	<p>総務部</p> <p>総務部 学内幹事</p> <p>学内幹事 事務</p> <p>学内幹事</p>	<p>中学校への継続的な訪問</p> <p>継続的なコミュニケーション</p> <p>名簿整備</p> <p>検討</p> <p>実施</p>	

ドメイン	行動目標	戦略計画	事業内容	緊急度	達成度の指標 (2018年度目標)	責任者等	2015年度	2016年度 ロードマップ	2017年度	2018年度	2019年度 以降	
組織・体制整備	2. ブランド力の向上	2) 在校生・卒業生の帰属感	<p>■卒業生及び保護者との総合的な交流の促進を支援する。</p> <p>○同窓会組織との連携を強化するとともに、卒業生と在学生とが交流する機会を増加</p>	B	交流件数	学内幹事 事務	検討 ↑					
			○学内幹事の組織化	B	組織化	学内幹事	組織化 ↑					
			○90周年記念総会に向けて、コア幹事会を実施	A	組織化	学内幹事	開催準備 ↑					

※緊急度：A 緊急度→最も高い B 緊急度→やや高い

※★：担当部署



### 連絡先

名城大学 経営本部 総合政策部

TEL : (052)838-2005

FAX : (052)832-2317

E-Mail : oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp

